

❖ JGS-CC[®]グリーン標準荷姿と価格を改定 資材価格値下げ = 建設物価掲載 (新内容: 平成30年5月号より) =



過日、国土交通省「公園緑地工事共通仕様書(平成30年4月改訂)」*1に、緑化整備における土壌改良資材として、弊社資材の「JGS-CCグリーン(緑化用土壌改良材)」が新たに記載となりました。

弊社では共通仕様書の記載に合わせ、「JGS-CCグリーン」の標準荷姿をこれまでの50ℓ袋から1,000ℓフレコン袋に変更*2しました。これは、全国の芝生グラウンド整備工事現場でご利用されるほとんどがフレコン袋のためです。また、標準荷姿の変更に合わせ、資材価格の値下げ改訂も行いました。詳しい内容につきましては、弊社までお問い合わせ頂くか、月刊建設物価*3の最新号をご確認下さい。

よりご利用しやすくなりました弊社資材をよろしくお祈りします。

※1 詳しくは前回発行のJGSNEWS号外をご覧ください。

※2 標準荷姿は変更となりましたが、従来の50ℓ袋も継続販売しています。

※3 月刊建設物価は(財)建設物価調査会発行の総合物価版書籍です。

❖ 弊社Webサイトに 「教本掲載情報」と「国体会場への納入実績」の 情報ページを新たに追加!!



弊社ホームページに、「教本掲載情報」ページと「国体会場への納入実績」ページを新たに追加いたしました。

「教本掲載情報」ページでは、国をはじめ、各自治体、民間の体育・スポーツ施設建設のための基本書として使用される「屋外体育施設の建設指針」や「屋外体育施設舗装工事 積算の手引」への弊社資材の掲載情報をご紹介します。

JGS 教本掲載 で検索!

<http://jgsc.com/textbooks/>



また、国体会場への納入実績をまとめた、「国体会場への納入実績」のページを新たに追加いたしました。各国体会場への弊社資材の納入実績がご覧いただけますので、ぜひご覧ください。

JGS 国体特集 で検索!

<http://jgsc.com/the-national-athletic-meet/>



～人と地球環境の共生を～
私たちは、国内産針葉樹皮の有効利用を促進することで、
環境保全・循環型社会への貢献に取り組んでいます。

❖ ラグビーW杯2019 日本大会まであと1年 JGS-CC[®]グリーン採用のグラウンド、公認キャンプ地に4箇所決定!!

厳しい要求水準をクリアし59自治体決定

ラグビーワールドカップは、4年に一度開催される15人制ラグビーの世界王者決定戦。夏季オリンピック、FIFAワールドカップに次ぐ規模となる世界三大スポーツイベントの一つです。2019年9月20日開幕まであと1年を切る中、日本大会に出場する20チームが期間中に1次リーグで使用する公認キャンプ地が決まりました。

2016年末に締め切られた応募では、日本全国から76件90自治体が名乗りを上げましたが、国際統括団体であるワールドラグビーが要求する高い水準をクリアし、最終決定したのは、59自治体、52件。JGS-CCグリーンをご採用頂いたグラウンドも下記4箇所が決定しました。

「完璧な芝生」とトップ選手からも高評価

別府市のグラウンドについては、今年1～2月にサンウルブズが、3月にはトップリーグのホンダヒートが相次いで合宿で使用。トップ選手たちに「クッション性があり、強いパーフェクトな芝生」と高評価を頂きました。既に評判を聞いた複数のチームから問い合わせやキャンプの打診が来ているそうです。



大分県別府市のグラウンド 撮影: 2018年1月30日

公認キャンプ地に決定した JGS-CC[®]グリーン採用のグラウンド

- 《長崎県長崎市》
スコットランドに決定!!
2013年長崎国体ラグビー会場としても使用されました。
- 《山口県長門市》
使用チームは11月決定予定!!
2011年山口国体ラグビー(少年男子)会場としても使用されました。
- 《大分県別府市》
ニュージーランド・ウエールズ
オーストラリアに決定!!
- 《大分県大分市》
フィジー・ウルグアイに決定!!

※公認チームキャンプ地に関する具体的な施設名等は、ラグビーワールドカップ組織委員会の依頼により、現在は非公開となっているため、決定した自治体名の公表のみとさせていただきます。

JGS-CC[®]グリーン 採用事例紹介① 大分県別府市 実相寺多目的グラウンド改修工事

土から芝へ「緑があると癒される」地元の人にも大好評



撮影：2016年10月24日

撮影：2017年11月3日

改修前はクレイ舗装だったグラウンド。降雨後の水はけが悪く、表面には次々と石が現れるなど、利用者の怪我の心配もありました。世界最大規模を誇る温泉地を武器に、2020年のオリンピックやパラリンピック等のキャンプ地誘致を見据え、キャンプ地のメッカを目指す別府市は、大々的に天然芝のグラウンドへ改修しました。グラウンド利用者ばかりでなく、公園を散歩する地元の人にも「緑があると癒されますね」と大好評です。改修工事の様子は、「実相寺多目的グラウンド整備状況 [検索](#)」をご覧ください。

こだわったのは地面の下 矛盾する多くの要求事項に対応する創意工夫

降雨後、すぐに使えるグラウンドにするためには排水性は良好に。芝の良好な生育と維持管理時の水道代節約のためには保水性は良好に。選手の怪我防止のためには軟らかい芝生を。プレイによる擦り切れに耐えるためには強い芝生を。矛盾する多くの要求事項を満たすために、「地面の下(=床土)」の改良には徹底的にこだわりました。

芝生部分についてはティフトン 30%撒芝(まきしば)で対応しました。床土の改良を行っても、張芝の際に付着してくる土が不透水層を形成してしまうことがあります。撒芝であればそのリスクはありません。芝生購入のコスト削減にもなるので、その分、床土改良に力を注ぎます。温暖な九州の気候に合わせ、適切な施工時期と養生期間という時間軸も考慮した改修計画により、美しい緑の絨毯のような芝地が実現できました。

供用開始後の踏圧や管理機械の侵入による将来的な締め固まりも想定し、固結防止対策も講じてあります。

多くのアスリートに、そして地元の人達に。未長く愛される施設であってほしいと願っています。



撒芝後1か月目の根の状況

撮影：2017年7月28日

JGS-CC[®]グリーン 採用事例紹介② 大分県大分市 駄原(だのはる)総合運動公園改修工事

芝生グラウンドの改修 排水対策・固結防止対策で蘇りました！



撮影：2017年1月

撮影：2018年6月



撮影：2018年1月



撮影：2018年3月



撒芝後、3か月目の根の状況

撮影：2018年6月

改修前は排水性が悪く、雑草の混入も多く見られた芝舗装グラウンド。現状の断面調査を行ったところ、固結層・透水不良層があることがわかりました。そのため、改修にあたり新たに暗渠排水を設置して基盤全体の排水性を確保しました。さらに根系域についても、良質な砂を選択し、JGS-CCグリーンを混合することで、保水対策・踏圧による固結防止対策も講じました。

撒芝による施工3か月後、深さ20cm以上、根が侵入しており、根張も大変良好でした。